

特集 本学広報誌の未来 読者懇談会

れで評判はいいんですが、なにせ委員会が3人きりなものですから、マンパワーの関係で、毎号歴史ものを扱うのは少し苦しいんです。ですから、記者と編集者の色分けも、うちでは難しいですね。それから、「ヘルメス・クーリエ」は全編8ページという小冊子ですので、読みやすさを重視しますと、教員の研究紹介に大きな力点をなかなか置けないのです。この点は、ページ数も多く、ダイナミックな自然科学系の研究を紹介している北大さんが少しうらやましく感じます。教員の研究に関しましては、「先生紹介」のシリーズで触れるように努めています。高商石鹸復活プロジェクトは、現在化学・片岡ゼミにて進行中です。

参加者：全体として手ごろな冊子だと感じました。法人化の時も、丁寧な解説がされており好感が持てました。学長が、正門をバックにして写ったページは、「ようこそ、商大へ」みたいな感じがしていいですね。（注：現在の商大の建造物で、高商時代の名残を残すものは復元された正門だけなのです。）今後、編集はアウトソーシングを避け、商大生の肉声載せるためにも学内で行った方がいいでしょう。編集委員にも女性教員を加えたいかがですか。広告については、賛否あるようですが、私はできれば載せない方がいいと思います。

鈴木：編集委員に女性がいないのはたまたまですが、「シリーズ先生紹介」には、確かに女性教員がまだ登場していませんでした。さっそく善処します。（注：というわけで、今回の「先生紹介」は片桐由喜先生です！）

参加者：エバークリーン講座（注：OBが講師となり次々と連続講義を行う商大伝統の総合講座）の紹介記事を書いてください。この間の雑誌に載ったランキングでせっかく5位になったのですから、もっとPRしてもよろしいかと思えます。（注：ホームページにも載っていますが、昨年9月22日付「週刊ダイヤモンド」の「出世できる大学ランキング」で、商大は、東大、一橋大、慶應大、京大に続く全国5位となりました。）

参加者：学外で活躍する学生をもっと紹介してください。配布場所も、病院やコミュニティーセンターなど、一層広範に配布したらよろしいでしょう。

参加者：入試に関して、東京試験場の再開を検討していると聞きました。今度は長続きするようお願いします。

鈴木：エバークリーン講座を市民の皆さんにも紹介して、できれば聴講していただきたいのもやまやまなのですが、この講座は学生にも大変人気がありまして、受講生が殺到している状態です。その点をまず少し改善していかねばならないでしょう。学生の活躍についてはゴルフキャディーや、カフェ経営など、これまでも積極的に記事にしてきました。現在、ある商大生が作ったパンフレット「小樽のお餅屋さん」（次ページ参照）が市民や観光客の間でひそかな人気を集めていますが、これもまた記事に取り上げるつもりです。入試の件は、広報誌の問題とは別ですが、来年には東京試験場が開設される予定です。

それでは、皆さまから承ったご意見・ご提案を、今後の編集方針の貴重な参考とさせていただきますと思います。本日は誠に有難うございました。



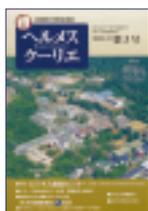
ヘルメス・クーリエ
バックナンバー
一覧



創刊号
(2002年2月発行)



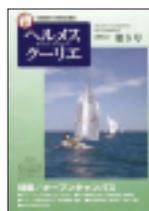
第2号



第3号



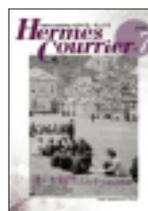
第4号



第5号



第6号



第7号



第8号



第9号



第10号



第11号



第12号



第13号



第14号



第15号